

恵風だより



令和2年12月24日発行 No9

かのとうし 辛丑の来年は飛躍の年？

校長 坂井 廣幸

今年もあとわずかとなりました。今年には新型コロナウイルス感染症が蔓延したことで、長く記憶される年になるでしょう。今後2020年を振り返るとき、「あのコロナの年」と言えば、みんなそれぞれにいろいろな思い出がよみがえり、暑い夏でもマスクをしたことや何度も手を洗った記憶がよみがえるのでしょうか。

でも、いつまでも新型コロナウイルスに引きずられてもいやになりますので、新しい年に期待したいと思います。来年2021年は干支でいけば^{うし}丑年となります。ただ干支というのは正確に言うと「干」と「支」の組み合わせであり、丑は「支」の部分になります。すると「干」の部分は何かと調べると「辛（かのと）」でした。すると来年は「辛丑（かのとうし）」となります。この辛丑は60年ごとにやってくるので、前回の辛丑は1961年になります。1961年には何が起こったのか調べてみると、ソ連の宇宙飛行士ガガーリンが宇宙で有人飛行を行ったのがこの年です。当時は米ソ冷戦の時代であり、ソ連がアメリカに先駆けて有人宇宙飛行を成功させたので、後れを取ったアメリカは国家の威信をかけて1969年にアポロ11号を月面に着陸させたのだと思われます。とにかく歴史的にエポックメイキングの年であったことは事実です。2021年がそんな大きな発展の年になるかはわかりませんが、とにかく新型コロナウイルスの感染拡大だけはご勘弁いただきたいと思います。ワクチンが接種されたという話も聞いているので、なんとか新型コロナウイルスを収束させて、オリンピックが無事に開催されることを望んでいます。

さて、教育の場では大きな変容がみられそうです。今年7月7日に文部科学省から「GIGAスクール構想」についての発表がありました。これは一人1台に端末を準備し、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、教育ICT環境を実現するものです。この環境整備によってより効果的な学びが可能になることが期待されています。特に特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たち一人ひとりに個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる可能性が生まれることで大きく学習効果が上がりそうです。

今年には新型コロナウイルス感染症対策のために、会社では自宅勤務やリモートでの会議が実施され、大学ではオンライン授業が行われるなど、これまで以上に情報技術の利点が生かされました。学校ではリモートで行った授業も授業時数と認められることがあるとニュースで耳にしました。これから人はリモートで「面会」し、リモートで学習する機会が増えていくのかもしれませんが、わざわざ足を運ぶ必要性は今後減ってくるのでしょうか。地方が寂れて東京の人口が増える、いわゆる「東京一極集中」の問題の解決にはこの辺に手がかりがあるのかもしれませんが、辛丑の来年は歩みは遅くても着実な前進を希望したいと思います。



高等部 新巻鮭づくり

例年より厳しい寒さが続く12月。この寒さの中、高等部生徒は新巻鮭づくりに取り組みました。

冷たい水を使った作業となりましたが、一人ひとり自分の担当の作業を確実に進め、みんなで協力し合い、100本以上の新巻鮭を作りました。寒風に晒され、一段とおいしくできました。



NS 授業

今年度の担当は、アメリカ出身のイーモン・クリアリィ先生です。小学部の授業では、自己紹介やゲームを行いました。初めは、英語での自己紹介に緊張している様子でしたが、「What is this?」という質問に英語で答えるゲームをしていくうちに、英語で話すことの楽しさを実感するようになっていました。



高等部 修学旅行に行ってきました！

12月2～5日、消毒や検温、換気などの様々な新型コロナウイルス感染症対策を講じて、北東北を巡る修学旅行を実施しました。平泉、秋田ふるさと村、浅虫水族館、十和田市現代美術館など、友情を深め、たくさんの思い出をつくることのできた充実の4日間でした。



療法士指導

本校では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の方から、専門的立場からのご指導、ご助言をいただく取組をしています。今年度は、摂食嚥下障害認定看護師の方からもアドバイスしていただきました。児童生徒への支援と指導の充実を図っていきたいと思います。

